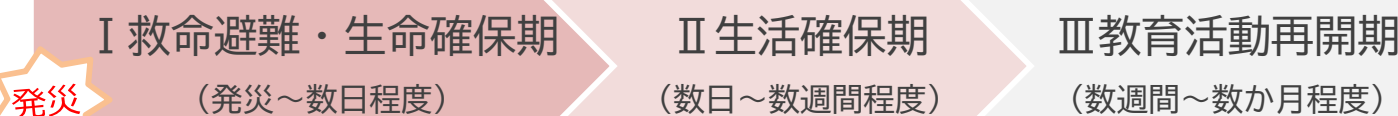


「HOPE-F」とは……

▶ 発災時の学校再開へ向けた環境整備や心のケア等のため、県内外において被災した学校等へ派遣されるチーム。

▶ 東日本大震災及び原子力発電所事故の経験と教訓を踏まえた研修等を実施し、実践的な対応能力のある教職員等で構成されるチーム員を養成。

●施設被害や教職員の被災等の課題がある学校で被災地の教職員等と連携した外部支援が必要



学校現場で支援を要する課題例：

- 児童生徒等の安否確認
- 避難所開設支援

- 避難生活中の学習支援
- 心のケア
- 教育活動再開支援

- 学校運営の支援
- 教育活動の実施



1 HOPE-F 組織体制

▶ 教育庁内関係課を中心に「HOPE-F(ホープふくしま) 庁内会議」を構成し体制を整備。チーム員は希望する県立学校教職員や教育庁職員等を想定。



- ・体制整備等に係る庁内会議の運営【総】
- ・チーム員名簿の登録・管理、育成・研修【社】
- ・チームを活かした防災教育の充実【健】 など

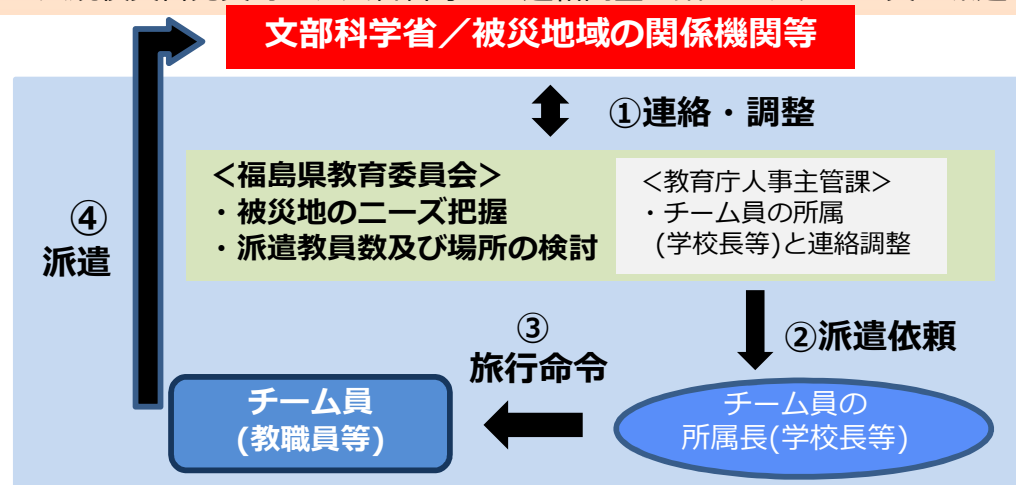


- ・被災地の情報収集【総】
- ・チーム員の派遣調整、現地活動の支援【総】
- ・チーム員の所属先との調整【職・高・特】 など

※【総】教育総務課、【社】社会教育課、【職】職員課、【高】高校教育課、【特】特別支援教育課、【健】健康教育課

2 教職員派遣フロー

▶ 大規模災害発災時に、文科省等との連絡調整を踏まえ、チーム員を派遣。



3 研修体制

▶ 大規模災害発生に備え、専門的な知識や実践的な対応能力を有する教職員を育成するとともに、東日本大震災から時間が経ち、震災学習の教材開発に苦慮する教員もいることから、広く学校現場での震災・防災教育に寄与するための研修を行う。

	●キックオフミーティング	●オンデマンド研修	●対面での研修会
内容	・支援の心構え、チーム目的・役割の確認 ・チームビルディング、平時と緊急時の勤務等 対象：チーム員となった教職員【悉皆】	・避難所運営、子どもたちの心のケア等 対象：チーム員【悉皆】及びチーム員になることを希望する教職員	・震災関連施設の見学、心のケアについての実習等 ・福島の実況を理解し、各学校での震災・防災教育につなげる。 対象：チーム員【悉皆】及び研修を希望する教職員



<検討の背景>

- 能登半島地震では学校の校舎やグラウンド等が被害を受け、教職員も被災者となる中、多くの学校で避難所開設され学校再開に必要な人員が不足
- こうした中で、子供たちの学びを速やかに確保するため、被災地外からの教職員等の派遣による支援が重要な役割を果たしたが、被災地での支援ニーズ等の迅速・的確な把握や、5県が設置する学校支援チームと国との連携体制などに課題があった。

発災 救命避難・生命確保期 (発災～数日程度) → 生活確保期 (数日～数週間程度) → 教育活動再開期 (数週間～数か月程度)

施設被害や教職員の被災等の課題がある学校で被災地の教職員等と連携した外部支援が必要

被災した学校現場で支援を要する課題例：

- 児童生徒等の安否確認
- 避難所開設支援

- 避難生活中的学習支援
- 心のケア
- 教育活動再開支援

- 学校運営の支援
- 教育活動の実施

<学校支援チームとは>

- ・訓練された教職員等が被災した学校の支援（学校再開のための環境整備、心のケア等）のため派遣
- ・兵庫・熊本・三重・宮城・岡山の5県でチームを設置
- ・能登半島地震でも、発災直後から各県チームが独自に被災地に入り、学校の早期再開に向けて支援を実施

9月の能登豪雨でもD-ESTの一環として文科省職員等を派遣しニーズ等を把握して支援に繋がったところ、今後の大規模災害に備え、被災地での速やかな学びの確保を図るため、被災地外からの教職員等の派遣枠組み（D-EST）を構築し、その実質化を図る。

Disaster Education Support Team

